



坤櫓、本丸西側土堀復元イメージ

福井城坤櫓の復元を応援しよう！

福井県では、福井城址の歴史的価値や魅力をさらに高めるため、坤櫓（ひつじさるやぐら）や本丸西側土堀の復元設計を進めており、早期復元を目指しています。いただいた寄付金は、福井城の坤櫓等の復元整備の財源として活用します。多くのみなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

選べるお礼の品 寄付の使い道に「福井城の櫓の復元を応援!」を指定してご寄付ください。

1 福井城オリジナル御城印帳

【寄付額】10,000円

幅124mm×高さ183mm×厚さ18mm
40ポケット、保護カバー付き



お申込みはこちら

(「ふるさとチョイス」へ移動します)



2 福井県ふるさとパスポート

【寄付額】10,000円

福井県立恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡博物館等の年間パスポート



お申込みはこちら

(「ふるさとチョイス」へ移動します)



※返礼品の進呈は福井県外在住の方に限ります。

福井城櫓等の復元について

福井城とは

福井城は、徳川家康の次男で、福井藩初代藩主の結城秀康によって、慶長11年(1606)頃に築城されました。徳川家康が自ら城の縄張を行ったとも伝えられている四重五重の水堀に囲まれた平城で、当時は高さ約30m、4層5階の壮大な天守がそびえていました。

天守は、寛文9年(1669)の大火で多くの櫓や城門とともに焼失し、以降再建されなかったものの、櫓や城門はその後再建され、明治初期まで福井藩の象徴となっていました。

明治以降、櫓や城門は取り壊され、四重五重の水堀も徐々に埋められましたが、本丸の石垣と内堀は400年以上たった今も現存しています。



「福居御城下絵図」
(松平文庫 福井県文書館保管)

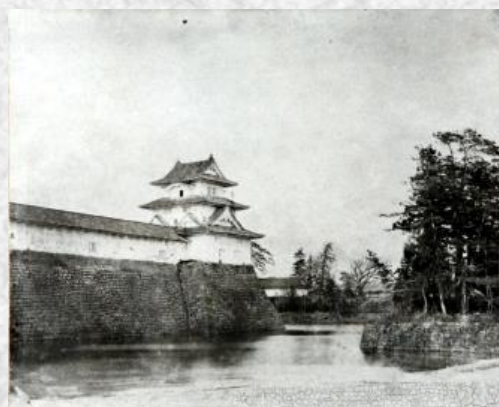
ひつじさるやぐら たつみやぐら

坤櫓と巽櫓

本丸の南西角にあった坤櫓と南東角にあった巽櫓は、幕府役人や藩主による城下の物見のほか、坤櫓は書物や証文の保管場所、巽櫓は台所道具や塩辛・昆布などの食料の保管場所として使用されていた記録が残っています。

寛文の大火による焼失後に再建された坤櫓と巽櫓は、3重5階建てで代用天守としての役割を担っていたと考えられています。

両櫓とも明治初期に他の城門等と同様に取り壊されました。



「旧福井城本丸巽三重櫓」
(福井市立郷土歴史博物館保管)

復元の動き

県では、福井城址の歴史的価値や魅力を高めるため、これまで、平成20年に「御廊下橋」、平成30年に「山里口御門」の復元整備を行いました。

現在では、坤櫓や本丸西側土堀の復元に取り組んでおり、令和5年度から復元工事に向けた調査や設計を進めています。

坤櫓は、当時の規模を再現し、高さ約16mで復元する計画です。復元後は福井駅から見えるようになります。



坤櫓・西側土堀の復元予想図

その他の寄付募集について

福井城櫓等復元募金推進委員会(事務局:福井県交通まちづくり課)では、櫓等の復元を応援していただく募金を募集しています。

寄付をいただいた方には、福井城ゆかりの記念品を進呈させていただきます。

※所得税等控除の対象となりませんのでご了承ください。



詳細はこちら
(福井県HP)

福井城櫓等の復元に関するお問い合わせ

福井県未来創造部新幹線・交通まちづくり局
交通まちづくり課

TEL:0776-20-0724(平日 9:00-17:00)

ふるさと納税のお申込みに関するお問い合わせ

福井県交流文化部
定住交流課

TEL:0776-20-0665(平日 9:00-17:00)